

概要

【対象】

小学校6年生（国語・算数）、中学校3年生（国語・数学）

【目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する（文科省公式サイトより引用）。

出題範囲は、前学年までの指導事項を原則としています。また、生活習慣や学習意欲、家庭学習などに関する質問紙調査も行われました。

今年5月に実施した本調査の町立小・中学校の結果をまとめました。県公立学校の平均正答率を基準として、5ポイント以上高い場合は、「高い傾向」、5ポイント以上低い場合は、「低い傾向」と表しています（内容は抜粋しています）。

生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

◆小学校

〔高い傾向〕

・家で自ら計画を立てて勉強をしていること

〔低い傾向〕

・自分には、よいところがあると思うこと

◆中学校

〔高い傾向〕

・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていること

〔低い傾向〕

・難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していること

町立学校では、学びを自分で選んだり、身近な課題について考えたりすることによって、主体的に取り組む態度に繋がっています。特に中学校では、言語活動をとおり、自分の考えの深まりや広がりを実感できています。半面、自己肯定感などが低い傾向にあります。今後は、それらを高めるための教育活動を展開していきます。

学力調査

	小学校		中学校	
	国語	県平均正答率と同程度	国語	県平均正答率と同程度
高い傾向	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけること。 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うこと。		伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと。 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること。	
低い傾向	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。 文の中における主語と述語との関係を捉えること。		相手や場に応じて敬語を適切に使うこと。	
	算数	県平均正答率より低い傾向	数学	県平均正答率と同程度
高い傾向	棒グラフから、項目間の関係を読み取ること。		ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現すること。 関数の意味を理解していること。	
低い傾向	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べること。 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場面に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数にあたる理由を記述できること。		目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができること。 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。	

松田町の子どもたちが「自ら課題を見つける」「自ら学ぼうとする」「自ら考える」「判断して行動する」という資質・能力を育成できるよう、町立学校の教師たちは、大学教授を招聘するなど、研さんを積んでまいります。